

四谷の

# 千枚田だより



第 241 号

## 第八回 奥三河パワートレイル

### 奥三河の町・村をつなぐ

### トレイルランニング大会

豊かな自然に恵まれ、パワースポットが点在する奥三河地域。その景色の変化を全身で感じながら、パワフルに森を駆け抜ける本格的な中距離トレイルランニング大会。



コース 茶白山くふれあいパーク  
ほうらい(距離約七十キロ 制限時間十三時間三十分)。参加費二万二千円。スタート 十月一日、早朝六時。保存会は四谷エイドステーション(ふれあい広場)の運営協力(選手への飲食物の提供・施設設置機材の提供、設置を依頼され、連谷地区有志へ呼びかけ、最大限に努めた。大会前日は「ふれあい広場」の草刈りやテント張りなど会場づくり。大会当日は三十七人の出役を得て、早朝からおにぎりづくりや湯茶の準備、シシ汁づくりにてんやわんや。一位選手が鞍掛山を通過の速報にエイドステーションを開設。挨拶

に会長は、いきなり「愚痴を言うよ」であるが、この、農繁期、脱穀の真つ最中に開催することに苦言を呈したい。もう少し後か、四月初旬なら充分な体制で協力できるが、この時期の開催協力には限界を感じている。どうか一考を。接待については地元出役者、ボランティア、スタッフの皆さん、今日一日を丸となり、大会を盛り上げていただいた。保存会も地域性を活かして、連谷スタイルでシシ汁、おにぎり、鳥長の皮肝などを準備した。選手の接待は無論、皆さんも連谷の味を堪能しながら、ご苦労さまであるが、ご苦労を兼ねて、大会を盛り上げていただきたい」と願った。

新城市観光課早川副課長から、大会の成功と皆さんの協力をよろしくと挨拶があり、本番に突入した。一位選手の到着アナウンスにスタッフ全員が感動の拍手で迎え、次々に到着する選手に真心を込め

た接待を行った。  
表にチェックポイントと到着数を纏めてみた。表からみても判るように四谷エイドステーションのリアイア数が四十七名と他地区より多い。これは、地元スタッフの行き過ぎた接待の表れで、リピーター選手もミネアサヒのおにぎりやシシ汁・お茶に誘われ、「なにがなんでも四谷の千枚田まで辿り着くのが目標だ」との声が聞こえてきた。  
みんな ご苦労様でした。

	距離 (km)	到着 (名)
茶白山		382
面ノ木	13.8	382
笹 暮	21.1	368
小 松	31.8	363
千枚田	41.5	354
棚 山	48.8	307
門 谷	57.8	280
ふれあい パーク	65.8	245

◇九月十三日、同社が掲げる生物多様性保全活動三つのPJITのうち、愛知県特定外来植物の抜根、駆除作業を四谷の千枚田で実施した。  
 当日は新城市役所の中堅幹部職員も研修を兼ねて参加、あまりにも多い外来植物にビックリ、抜根作業に真剣に取り組んだ。  
 抜根駆除実績は、アメリカセンダングサ 百八十九kg、セイタカアワダチソウ 十〇、四kgであった。  
 同社は、この活動を行政や企業と協力、継続して行う予定。



特定外来植物の抜根・駆除作業の説明

◇九月二十七日、横浜ゴム新城工場は第八回奥三河パワートレイルコース（ふれあい広場から市道入口）の清掃整備を実施、走る選手の安全を確保した。ありがとうさま  
**ヤマサちくわの稲刈り**  
 同社は春（田植え）と秋（稲刈り）

に社員の親睦・研修として四谷の千枚田で稲作体験を行っている。  
 九月十七日、原田英史（理事）の管理する田んぼで手ほどきを受け、慣れない手つきで稲刈りを行った。  
 …でも、楽しそうだった。



**鳳来寺小学校の稲刈り**  
 二十二日、五年生十一人は小山さんに鎌の使い方、縛り方の説明を受けた後、稲刈りを進めた。稲刈りも慣れてくるとスムーズにできるようになったが、束ねた稲を縛ることに苦戦していた。



**脱穀**  
 豊橋調理製菓専門学校の学生は将来、食のプロを目指す。その原点はコメであり、一粒のコメの大切さを身をもって知ることが大切であり、平成十八年から稲作体験学習を四谷の千枚田で実践している。  
 十月五日、二十一名の学生は自ら育てた稲の脱穀を行った。  
 今年は天候不順で開花期の受粉、授精が悪く、例年の半分以下の収穫であったが、豊作、不作はその年の天候に大きく左右されるのが体感でき、学生たちに大きな収穫（勉強）になったことは確かである。



この、体験学習は新城市鳳来総合

支所地域課整備係を窓口で保存会共々行っており、長坂地域課長は歓迎挨拶にて、多様性に富んだ千枚田のPR、学生に将来、独立してお店を持つたら、是非小山さんを一番先に招待してください。と。東海農政局（五名）野中地方参事官は「食の安全安心」などを盛り込んで挨拶。そのほかに、県新城設楽農林水産事務所建設課三名、地域課三名の行政職員が視察、指導で参加した。



行 令和五年十月十五日  
 鞍掛山麓千枚田保存会  
 文 責 小山舜二